臺灣日日新報

本日八頁

臺灣日日新報社

株式會社[illegible]公告

東洋自動車運輸株式會社
書換停止公告

恭賀新年
臺北山下町四ノ六
義成製菓商會

謝江西

割烹
臺北西門町二ノ四
松竹
電話一〇七三番

文山郡新店庄
熊井才吉

生花並ニ花環製造販賣
花源
電話一〇四五八番

山田自動車商會
臺北市若竹町　電話二四六六番

壁塗料
ⓢ庄司組
出張所　新竹市・基隆市
庄司金之助

日・英・獨・佛・米專賣特許
ミクニ
榮養ある汁
コーヒー・ココアの代用品、飲料界のスター、ミクニ印榮養しるこは小豆の精製品で香味、風味共に絶佳
臺灣賣捌元　宅商會

專賣特許
寒さ冷さ御心配御無用の事
610ハップ（温泉藥）
臺灣賣捌元　宅商會

謹賀新年
臺北市
西瀛公司

謹賀新年
川端ベビーゴルフ場

中華料理　廣東料理
蓬萊閣
電話六二、七四九、一三七五番

賀正
臺北タクシー商會
電話一九九一番

臺北市京町三丁目
ニューマグネット號
竹内自轉車店

昭和七年
恆例の御引立を賜り
本年も相變らず
御ひいき願上奉ります

臺北市榮町京町（都通り）
松井呉服店
店主　松井　稻兵衛
店員　一同　敬白

お正月は縁起のよい
マルキン醬油で
祝ひませう！

基隆市昭和町
新岸壁驛前
煙草　内地土産品各種　酒類
平和堂
電話六四九番

酒類　食料品商　雜貨
藤盛雜貨店
電話一〇〇一番

和洋御菓子　御祝儀用　餅、赤飯
レコード餅店
電話八九八番

賀正
增野市太
電話一一六番

臺灣總督府交通局遞信部公認海陸運輸業
基隆市明治町四丁目五番地
木村岩藏
仌運送店

服部和洋雜貨部
服部四郎右衛門

西村商店
電話三二四一番

鈴木浪藏商店

水上回漕支店

藥種商
葉連發商店
店主　葉得福

朱祿海陸運輸部

賀正
基隆理髮組合

雨衣足袋履物商
㊥平尾商店

佐藤表具店

ミドリ藥局
藥劑師　河合音治

有馬寫眞館

石炭商
瑞成林商行

合羽製造卸　作業服
白土合羽店

石炭新炭卸小賣商
㊀川久保商店

鰹節製造販賣、發動機船漁撈
基隆市濱町鰹節工場
西村多郎助商店
電話五二七番

漁撈　鹽鮮乾魚　鰹節製造販賣　米用石粉
基隆市入船町
吉井商店

本島を引揚げ南支南洋に進展し故山に歸臥せられんとする志士仁人は其地方の圖書館に對し記念として多少に拘らず圖書の御寄贈を希ふ
基隆　石坂莊作

石炭採掘販賣
基隆市福德町一丁目六番地
倪蔣懷
電話四三一番

賀正
食料品、酒、煙草小賣
岩尾雜貨店

賀正
鈴木清五郎

謝裕記商行

新德源商行

林冠世

臺灣海陸物產株式會社

基隆珊瑚商組合
基隆市義重町通
岩田珊瑚店
西田珊瑚店
植田珊瑚店
新谷珊瑚店

基隆驛前
常盤旅館

基隆新岸壁前
常盤食堂

各種タイプライター、タイプライター用品
松本洋行
基隆タイピスト養成所
松本信次

石炭商
東和商行

瑞芳驛前
石炭年産三萬噸
東和採炭公司
代表者　沖亮吉

基隆郡
瑞芳庄役場

瑞芳信用組合

醬油釀造元
宮添商行

富元呉服店

土木請負
黃石降

第十六區煙草賣捌人
黃棟卿

基隆市
潘榮春

基隆市
許梓桑

基隆派遣看護婦會
產婆　德永靜子
基隆市双葉町

謹賀新年
基隆齒科醫師會
伊藤祐之
伊藤宇平
陳阿漢
楊貞周
田尻治壽
中島鐵治郎
山本忠規
小淵賢治
杉山彬

基隆市明治町三ノ六
張保

若き日は

人生の黄金時代

その若々しさとうるはしさをいつまでも保つことが確かに出來ますクラブ美身クリームの御常用によつて……

クラブ美身クリーム

アレ止めに　日ヤケ止めに　粉白粉下に

七星郡
内湖庄役場
庄長　郭國仕
助役　林雙和
外職員一同

肥料　雜穀商
㊅高情

松山
七星商會
代表者　彭陳輝

松山茂記精米所
周河

七星郡松山煙草賣捌人
五十嵐喜三郎

七星郡
松山庄役場
庄長　五十嵐喜一郎
助役　徐春則
外役員一同

松山
信用購買組合

米穀商
江泉盛

蔡新圳

內湖信用購買組合

新竹市
樋口典常

新竹州苗栗街
中村邦太郎

松山運輸組

復記產業株式會社

新竹市東門
藤原金物店

新竹白粉は
昌成商店に限る

相良洋服店

大阪商船

近海郵船

嘉村旅團の先鋒隊
二日朝錦州に入城
無人の境を往くが如く西進

【溝幇子二日發電通】一日朝溝幇子を出發せる多門師團及び嘉村旅團の前衛部隊は殆んど無人の境を往くが如く西進し午後五時小凌河（錦州の東方三里）の左岸に到著した今夜は此處に宿營して二日早朝愈々錦州に入城の豫定である

（奉天二日發電通至急報）嘉村旅團先鋒の第一、二裝甲列車及騎兵の一隊は二日午前六時錦州に入城した

大凌河に敵影なく
錦州城内もひつそり
わが飛行機からの情報

【大石橋一日發電通】一日飛來した大西、[illegible]兩大尉の齎せる情報によれば我軍の〇〇師團及び〇〇旅團の先頭騎兵部隊は北寧線に飛び無人の境をゆくが如く石山站附近を南下中であるが大凌河の防禦陣地には殆ど敵影なく錦州城内も極めてひつそり閑としてゐる錦州から山海關に至る間には依然車馬を滿載せる數箇列車が關内に向け疾走中で敵裝甲列車は纔に二兩其他山海關[illegible]より錦州に至る各驛には二百乃至五百の各部隊が見受けらるるも之等は列車に依る輸送を待ちつつあるものの如し

我軍急速度に西進し
大凌河驛を占領す
錦州軍は西方に退却

【奉天二日發電通】軍司令部發表、一日午後四時飛行隊の報告に依れば匪賊討伐軍は一日午後五時その先頭隊をもつて大凌河に進出した

【奉天二日發電通】多門師團の嘉村旅團は溝幇子に主力を集結後今朝來鐵甲車を以つて急速度に西進し既に午後三時大凌河を渡り大凌河驛を占領した錦州軍は西方に向け續々退却中にて錦州の西方八里の高橋にて敵列車八列車あり錦州には車輛五十輛あるも既に兵居らず我軍の急速なる進出に周章狼狽して西方に退却したものの如し

如何なる犠牲を拂ふも
錦州を固守せよ
國府から學良に命令

【南京一日發聯合】國民政府は今夜深更またまた張學良に對し如何なる犠牲を拂ふとも絕對に錦州を固守すべしとの電命を發し同時に錦州における支那軍の兵備並に警備及防備計畫を至急報告せよと訓令した

東北軍が撤退しても
事態樂觀を許さず
錦州の東北軍は約四萬

【天津一日發電通】錦州一帶に散在する東北軍は約四萬でこの全部が完全に撤退するか否かは疑問であり加ふるに學良が昨秋來召集せる部隊は十萬に上りその內約六萬が錦州を本據として我軍の前衛を脅かさんとし今後も正規兵を[illegible]遣せるものと呼應して策動すべく東北軍が表面撤退しても事態は樂觀を許さない

本庄司令官も
司令部を進めん

【奉天三十一日發聯合】嘉村〇〇旅團の[illegible]多門〇師團長と協同動作をとり完全な[illegible]を期す目的で室〇〇師團長は今明日中に〇〇〇に司令部を進める筈で元旦の午後には[illegible]室師團長が溝幇子に會する事となつた、更に形勢の推移次第では本庄軍司令官自身〇〇〇に司令部を進め幕僚の下に全軍を[illegible]指揮する筈、その時期は多分三日頃とならうと

室師團
二日朝出動

【奉天一日發電通】奉天にて待機中の室〇〇師團に一日溝幇子以西匪賊討伐の命降り室師團は二日朝奉天發〇〇方面に出動することとなつた

司令部列車
北方へ進擊

【營口三十一日發電通】多門〇〇師團長の司令部列車は三十一日午前八時四十五分[illegible]發北方へ進擊した

驅逐
兵匪二千を

【奉天三十一日發電通】[illegible]方面に[illegible]部隊は兵匪二千を驅逐して午後一[illegible]

我軍に逆襲

【大石橋三十一日發電通】去る二十九日[illegible]

宮中の二日祭

【東京二日發電通】宮中では一日午前六時半から二日祭に同じ御次第を以て賢所三殿で二日祭を擧げさせられ[illegible]典長は例により天皇陛下の御代拜を奉仕し同七時御儀を閉ぢた、またこれに引き續き拜賀第二日を元旦と同樣午前十時から正殿に於て行はせられ天皇皇后兩陛下には各皇族殿下お揃ひにて出御、宮中席次第三階第二十八乃至三十八の有資格者同夫人、勅二等三等の外國人同夫人から二列立の拜賀をうけさせられた

白旗堡に匪賊襲來
交戰三十分後擊退

【白旗堡一日發電通】一月一日午前五時頃約十名の匪賊は白旗堡驛西方より襲擊し來り我軍は交戰卅分の後之を擊退したが右匪賊は三十一日朝及び夜に亘り續々として白旗堡、新民府間に襲來せる匪賊の一味らしく白旗堡驛北の我が線路〇〇〇中隊は鄉家溝驛北〇〇部隊と共に一日早朝より新年早々の匪賊討伐戰を開始した尙三十一日夜打虎山より饒陽河へ歸還の途に就いた我が列車は饒陽河附近にて匪賊の襲擊を受けこれを擊退した

我驅逐隊司令
支那側に聲明を發す

【天津一日發電通】錦州軍の總退却に伴ひ山海關方面の形勢險惡なるに鑑み秦皇島に派遣せる我〇〇驅逐隊司令〇〇中佐は山海關駐屯軍第九旅長何柱國に對し三十日付左の聲明を發した

我軍は秦皇島沖に碇泊してゐるがこの目的は日僑居留民の保護にあり東北敗退兵にして我居留民及び守備隊に危害を加へざる限りその撤退を阻止するが如き行動はせぬことに決してゐる

北寧線に出動

【奉天三十一日發電通】〇〇師團は一日拂曉を期し奉天發北寧線に出動することとなつた

我軍の主力
溝幇子に集結

【奉天一日發聯合】軍司令部發表 本日午後四時飛行隊發表によると我が兵匪討伐軍は午後三時その先頭を以つて大凌河の線に進入す我軍主力は溝幇子に集結しあり

初年兵四十名
先發

【營口三十一日發電通】我軍北進後北寧線營口支線は大石橋守備隊が鐵道警備に當つてゐるが沿線匪賊の橫行甚だしく警備手薄の爲め十二月一日入營の初年兵四十名を先發今朝七時出發せしめた

灤州まで總退却令
軍事會議の結果決定

【天津一日發聯合】昨日の最高軍事會議決議により灤州迄總退却令を發するに決した

全兵力の奉天
移駐終る

【奉天三十一日發電通】三十一日午前二時までに全兵力の奉天移駐を終つた

錦州軍の
關内引揚事情
熱河入りを拒絕のため

【奉天一日發電通】錦州軍は我軍の急速なる進出に遭ふや熱河の湯玉麟に對し再三熱河入りを諒解したるも既に學良との關係を斷つた湯玉麟は斷然之を拒絕したるため錦州軍は餘儀なく山海關を通過して關內に引揚げた

張景惠が
獨立宣言

【ハルビン一日發聯合】今朝九時哈爾濱特別區長官張景惠氏は黑龍江省獨立を宣言し全國に通電を發した

駐日米大使
辭職を申出づ

【華盛頓三十一日發聯合】米國駐日大使カメロン・フォーブス氏は本日國務省に對し辭職外交官生活を退きたき旨を通告したが國務省の危機去る迄は職に止まり二月以內に辭職すると

安東襲擊を企つ

【奉天一日發聯合】安奉線五龍背の東方約二里の山中に約二千の兵匪集結し更に安東襲擊を企圖し前進中との報に安東動搖し守備隊警官隊警戒中

錦州軍の總退却で
戰鬪はあるまい

【奉天三十一日發聯合】錦州軍の總退却によつてその態度が急變せざる限り戰鬪は絕對なしと言ふに軍當局の見解一致一日からは[illegible]方面に向ふ事となつた

臺北州の
新年拜賀式

臺北州の新年拜賀式は一日午前九時から州廳會議室に於て行はれ平山知事御眞影奉拜の後高等官、同待遇者、有位帶勳者、判任官、同待遇者[illegible]總代から知事に新年の祝辭を申上げ散會した

臺北市新年式

臺北市役所の新年式は一日午前九時[illegible]

臺北の新年交禮會
皇軍に慰問電報を發し
太田總督の發聲で
兩陛下の萬歲を唱和し奉る

島都臺北市の元旦は前日來の降雨もカラリと晴れ午前の好天[illegible]和の御代を寿く[illegible]旗の色も鮮かに街頭の年賀の客も朗らかに

瑞光に滿つる

あつた、この日臺北市恒例の交禮會は午前十時十五分からホテルにおいて開催された、太田總督、[illegible]軍司令官をはじめ官民の出席者無慮千五百名、一同[illegible]

內臺融和

[illegible]

我々國民として

[illegible]

擧國一致

[illegible]

新年式
總督府の

昭和七年元旦にあたり督府では午前九時より府內會議室に於て新年拜賀式を擧行した、太田總督としてはじめての新年を迎へる太田總督は大禮服に身をつつみ入場、木下長官、各局長、高等官一同定めの席につき先づ總督は恭しく御眞影を奉拜、ついで長官以下[illegible]次に奉拜して式を終り退場、次で府內判任官一同入場して[illegible]總督に向つて新年の賀詞を述べそれより五人づつ並立して御眞影を奉拜し遂次退場九時半式を終つた[illegible]

各地のお正月

基隆

【基隆電話】基隆市における新年名刺交換會は一日午前十時から[illegible]に於て開催されたが集る者官民二千餘名[illegible]

新竹

新竹に於ける元旦は[illegible]

埔里

【埔里電話】埔里[illegible]

屏東

【屏東電話】屏東の元旦[illegible]

花蓮港

【花蓮港電話】花蓮港における元旦は[illegible]

馬公

【馬公一日發本社特電】元旦午前九時から海軍及陸軍[illegible]

本社の
新年祝賀會

本社の新年祝賀會は一日午前九時より三階[illegible]

赤石顧問祝電

[illegible]

臺北二日の初荷
盛に市中を練り廻る

臺北は元日に引續き二日も好天氣[illegible]

（寫眞はどりこの臺灣發賣元藤田商店の初荷）

高雄

【高雄電話】[illegible]

化王石鹸の初荷

[illegible]

高雄の初荷

【高雄電話】[illegible]

石橋代議士謝電

[illegible]

人事

▲秋山孝之輔氏（[illegible]）[illegible]

▲大和丸より（來往）[illegible]

シナチク

[illegible]

西門市場確實商店案内（順はろい）

福引場再開
新年お目出度う御座います
今年も不相變宜しく御願申上ます
福引殘しの方々の爲めに特に
一月四日午前九時より正午まで
本町聯合賣出會

化粧品 小間物 一式 織田商店
和洋雜貨 大庫商店
かどや菓子店
世帶道具一式 金重荒物店
神戸精肉 直移入 田伍作牛肉店
金物荒物 中村支店
電氣機具一式 中山電氣店
支那料理 來々軒
瀬戸物 松尾陶器店
學校用品 文房具一式 萬字堂文具店
幸文堂文具店
吳服店 佐藤伸吳服店
和洋雜貨 三上洋雜貨店
鷄肉專門 ひら井商店

賀正
梅本敏
澎湖廳

ロイマチス
神經痛・關節炎
外用藥 サロメチール
氣候の變り目毎に關節に鈍痛又は劇痛ある時…迅速に鎭痛の快感を得せしむ

謹賀新年

謹賀新年
小寺新一

謹賀新年
高須時太郎

幣原坦

㊐運送店 山本菊三郎
（臺北市[illegible]　電話一〇五五番　臺北驛前　電話一四二番）

臺北有名旅館案内（いろは順）

臺北市本町三丁目　一丸旅館　電話三七一一番

臺北市本町三丁目　新高旅館　電話四八四・六八六番

臺北市榮町一丁目　大丸旅館　電話九八〇番

臺北市本町二ノ三七　臺北ホテル　電話五七二・七五一番

臺北市本町一ノ一　太陽館　電話一八四番

臺北市榮町一丁目　山梅旅館　電話六四番

臺北市榮町（總督府前）　松濱旅館　電話二一一四番

臺北驛前　吾妻　電話二二一一・二〇六・三八二番

臺北市大和町三丁目　朝日館　電話六五四番

臺北市本町樂天地　明治旅館　電話六三七番

臺北市本町三ノ三　三橋屋　電話五五二番

臺北市明石町二ノ六　日之丸館　電話一三二五・四一八番

臺北市本町　攝津館　電話九〇番

臺北市大正町
小松吉久

臺北市榮町一丁目三〇番地
第一區煙草賣捌人
谷河梅人
電話一二九六番

臺北市榮町一丁目七番地
德海野商店
電話二三七一・二〇八番

BM&C
英國中佐硫安一手輸入元　月印曹達　灰重曹其他　一般化學工業藥品販賣
日本ブランナー、モンド、コムパニー リミテッド
臺北支店　臺北市榮町一ノ七　電話四二三三番
高雄出張所　高雄市[illegible]　電話七五五番

臺北州七星郡北投庄新北投二一五九
信州善光寺臺灣別院
院主　中野全能

東京樂生堂
慢性病科
善光院
臺北市御成町二ノ一四
臺灣總本院
院主　中野全能
電話七九〇番

悪性感冒の豫防にキット效ク

のみ易くて胃を障碍せぬ
福禄力セ藥
を召し上つて下さい

發賣元
南門藥局　電1523番 2391番

（全島有名藥店にあり）

臺北市壽町二ノ一七
天婦羅粉全島一手販賣
三谷商店
電話一四三三（呼出）

臺北市役所前
弁當並に御菓子　各種パン製造
金星本店
電話五一一番

賀正　1932

初荷大賣出し
寫眞奉仕

臺北市[illegible]樂天地
武井寫眞機店
電話一二九番　振替臺北四六四三番

臺北市表町二ノ一三
神戸組
電話二二五番

臺北市元園町
ゴム底足袋運動靴各種卸商
宮内商店
電話三〇四八番

臺北市[illegible]町二ノ二
木炭販賣
辻本商店
電話一二〇六番

臺北市内
ラヂオ商案内（イロハ順）

ラヂオ製作修理充電
臺北市本町三ノ一
大東電氣商會
電話三一三四番

ラヂオと各種附屬品
高砂無線商會
臺北市京町四ノ四

ラヂオと電氣器具
臺北市表町樂天地內
南工商會電氣部
電話三六七一番

ラヂオ各種
臺北市北門町一二
永淵商會電氣部
電話二三八七番

各種ラヂオ並ニ部分品小賣卸
臺北市本町四丁目
中川章輔商會臺北支店
電話二四六番　振替臺北四〇二五番

ラヂオ製作修理充電
榮町二ノ三
松田電氣商行
電話一一三五番

松下電器製作所臺灣配給所
サイモトロン眞空管臺灣配給所
電器、自轉車、銃砲火藥問屋
合資會社　小林商店電氣部
本店　臺北市京町三丁目三十番地　電話三八一一番

ラヂオと電氣機具
臺北市明石町二ノ六
日之丸電氣部
電話一六二〇番

技術本位　廉價主義
臺北市役所前
鈴木電氣ラヂオ商店
電話二二三九番

臺北湯屋組合

株式仲介　期米
臺北市末廣町二ノ一七
合資會社　㊅大丸株式店
電話二〇四〇番

小間物商　履物商
臺北市本町
壽美禮屋本店
壽美禮屋支店
電話八五六番

洋雜貨　釣道具一式
田中商店
臺北市表町二ノ一〇

九州製菓臺北代理店
臺北市表町
青島商店
電話九五二番

高尚　清楚
臺北新公園前
カフエー南國
臺北京町　電話一六九八番

臺北新公園前
美人揃でサービスは全島一
カフエーミヨコ
電話二六番

お正月中は御年玉進呈
カフエー吉乃
西門町芳の館角
電話二六八八番

萬華河岸
かき船
山吉山
電話二二四九番

臺北市大和町二丁目
御料理　まねき
電話一一九九番

臺北驛前通り
カフエーボタン
電話一六一三番

臺北市大和町
割烹　竹の家
電話一三三六・八四番

高級貨自動車並ニ販賣
巴自動車商會
電話三一八四・三三五番

西洋料理
金鍋電氣鋤燒
カフエートモヱ
電話二七〇九・二八八番

草山溫泉
御旅館　巴旅館
電話七六番

臺北新公園
ライオン
電話二一八七・二四五番

本店　臺北市兒玉町四丁目十六番地
支店　臺北市川端町九十一番地
御料理　林田虎太
有馬屋（電話本店二一七六番　支店三〇七六番）

大和町二ノ八
御料理　鳥松
電話三一二五番
臺北市太平町二ノ七九
鳥松分店明鏡堂
電話五三一番

臺北市新起町
御料理　と祢山
電話四〇八五番

兒玉町
氣分本位　ジヤングル
電話三五六九番

臺北市古亭町停留所前
川魚御料理　翠竹
電話三二七五番

萬華河岸
水上カフエー　ゴンドラ
電話三二二六番

割烹　梅の家
電話八七八

臺北
割烹　梅本
電話五五三番

割烹　新喜樂
電話四一三二七番

臺北市西門町二丁目
割烹　まる新
電話二〇五番

臺北市西門町三ノ一九
御料理　蔦喜樂
電話六三六番

臺北南料理屋組合
電話一二六四番

臺北市西門町二ノ一五
御料理　江戸長
電話一二九八番

臺灣料理　會席
臺北市新起町一ノ[illegible]
新起樓料理店
電話三千十番

臺北兒玉町
カフエー桃太郎
電話三四六〇番

臺北刑務所
藤木竹細工製品
臺灣特產品
子供乘物類
臺北市本町二丁目八番地（電話六七五番）
中島藤製品商會
店主　中島嶺
臺北市西門市場内仲店六號
中島分店
（電話[illegible]五四番）

大春石鹼本舗
臺灣石鹼合資會社
臺北市宮前町（勅使街道）
電話一三三九番

本社　東京市麴町區内幸町一丁目
取締役社長　石井徹
専務取締役　塚本明毅
太平生命保險株式會社
臺北支部長　渡邊四六九
臺北市太平町一丁目

臺北市有明町二ノ一〇七番地
土地、電話賣買
金錢貸借
其他一般紹介
歐陽學禮
電話八〇七番

臺北市公設永樂町食料品小賣市場商人一同

臺北市本町一丁目
馬場理髪館
電話三九六番

鐵道ホテル理髪部
小川繁一

臺北市御成町
德丸理髪館
電話二九六二番

江上理髪館
臺北市大和町　電話二〇二番

臺北市大和町三丁目
上海床

オリエンタルペイント株式會社
臺北出張所
臺北市太平町二ノ三　電話一八五三番

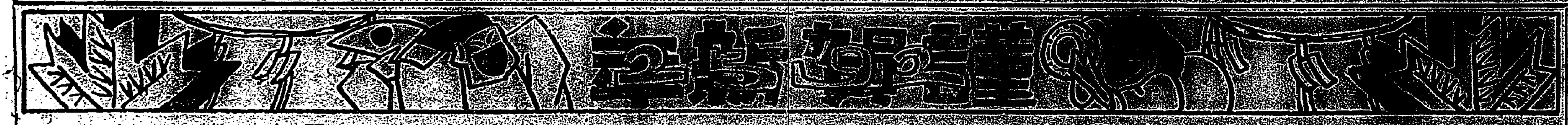
紙文房具　印刷
川田商店
臺北市北門町（臺北驛前）

吳服太物　洋反物　白生地類　美術京染
臺北市榮町二丁目二十三番地
㊎山城屋吳服店
電話[illegible]五八番

建具家具製作
土木建築請負
クラワン及オーク材直移入元
臺北市濱町二丁目
森山木工所
電話三三六番

謹賀新年
錦茂茶行
臺北市太平町三ノ八六番地

新高自動車株式會社
郭章棟
郭章琛
郭章鼎
謹賀新年
臺北驛前　電話四四・四二二番



美術コロタイプ
プロセス製版印刷
岡田印刷所
臺北市御成町二ノ十

賀正
洋酒各種、高級食料品
並ニ舶來高級化粧品
宮崎本店
臺北市千歳町一ノ七
電話二八四〇番

公認
臺北州自動車運轉手組合員一同

臺灣白蟻驅除豫防作業所
臺北新起町一ノ一〇
河西福貫
電話三〇三八番

臺北青物荷受組合
臺北市壽町五丁目五番地
電話二八七二番
電略ニウケクミアイ又ハ（ケクミ）

有限責任 **城南信用組合**
臺北市兒玉町三丁目
電話三九二二番

公債株式現物賣買
守日商店
臺北市本町三丁目一番地
電話二五三一番

校學用品文房具並ニ運動具
鈴木文具店
臺北市京町二ノ八
電話二四七番

和洋御菓子
三好堂
臺北市兒玉町二ノ二
電話三〇六一番

臺北京町
川本金物店
電話二九一五番

書籍雜誌
次高書店
臺北市京町一ノ二〇
電話一九二六番

印舖
文林堂
臺北市京町
電話九五〇番

新聞雜誌取次店
新原新柳堂
臺北市榮町三ノ二
電話八〇二番

器械藥品計器商
紫垣理化學器械店
臺北市榮町一丁目十八番地
電話三〇一八番

染料藥品塗料肥料商
下野盛豐堂
臺北市太平町二丁目二番地
電話五〇九番　振替五二九

萬染物
小川染工場
臺北市本町二丁目三八番地
電話一八三九番

文武官制服學校制服製帽所
カメダ帽子店
臺北市本町三丁目五十七番地
電話一八五三番
振替口座一五八九

東京物產販賣商
出口商店
臺北市榮町四丁目
出口兵吉

和洋紙文房具商
城南堂
臺北市兒玉町三丁目一番地
電話三七六九番

かるかん
内地送り（何處迄も發送とも御引受致します）
春日堂
臺北市兒玉町二
電話一九二四番

諸機械設計製作並ニ修理
廣畑松平
臺北市老松町二ノ二五
電話二六六一番

第一生命保險相互會社
臺灣支部長　佐々木禎
臺北市本町
電話一〇九一二ノ八番

電氣治療
專門 肺病、胃腸病 婦人病
治療
萬華分院
臺北市太平町七ノ七
大稻埕市場附近

尖山大組
臺北市西門町五丁目九番地
阿里山檜材 内地杉材
電話一三七九番
電略（ヤマ）又ハ（ヤセ）

謹て**新年の御挨拶**を**申上**げます

寫眞機械
娛樂用
營業用
活動用
材料藥品附屬品一般

東京小西六本店代理店
オリエンタル寫眞工業株式會社代理店
東洋乾板株式會社代理店
日本寫眞工業株式會社代理店
寫眞機並材料問屋
西尾商店
（新版目錄發行）
臺北市榮町二丁目
電話一〇二〇 振替二六八二

＝寫眞界の革命＝
專賣特許第七六八六五號
財團法人理化學研究所發明
理研陽畫感光紙
原畫が其儘茶褐色の陽畫に現はれる最新優良感光紙
紙質優良　著色自在
現像簡單　水洗不要
價格低廉　保存永久
見本（カタログ）進呈
臺灣總代理店
株式會社 **共益社**
臺北市新起町二丁目八
電話臺北三一・三二・三三
發賣元　理化學興業株式會社

SKF所屬4工場のベアリング製造高は一日總計128,000箇を超ゆ

SKF

128,000個　一日につき

全世界の工場經營はSKFベアリングの取附如何に決定す

臺灣總代理店
山一合資會社
臺北市京町三丁目一番地

三菱商事株式會社臺北支店
臺北市本町四丁目五番地
電話
三、四二三番（支店長用）
二、五一一番（穀物係用）
五九四番（自動車タイヤー）
一、七七五番（機械金物雜貨係用）
一、四一九番（庶務、會計係用）

日本石油株式會社
臺灣鑛業所
臺灣製油所
臺北販賣店

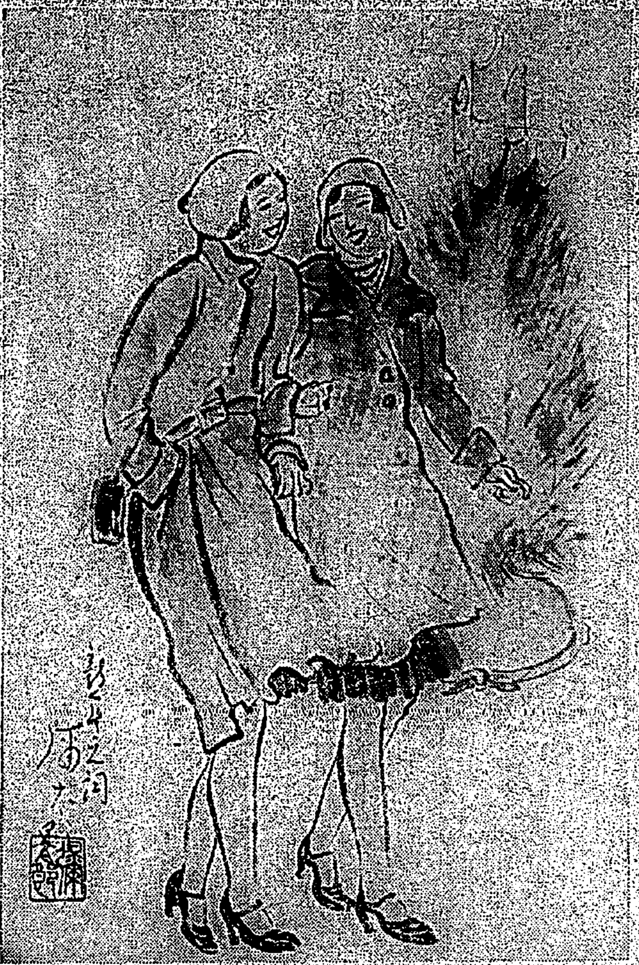
國際通運株式會社臺北支店
臺北市北門町七番地

臺灣土地建物株式會社
臺北、基隆、高雄、嘉義

火災保險は**どこ**へ
島内に本社があつて便利で取扱の親切な
大成火災海上保險株式會社
常務取締役　益子逞輔
常務取締役　林熊光

臺灣煉瓦株式會社
臺北市表町二丁目
臺北工場　臺中工場
嘉義工場　高雄工場

金瓜石鑛山株式會社



春裝　臺北　宮崎彌太郎氏筆

驚くほど變つて來た蕃人達の生活樣式

古い習慣をかなぐり捨てて平地人生活を憧れる

〜我等の愛すべき山の住民達が永い原始的生活から拔けて如何に進化し來りつゝあるかを新竹州下のサイセット、タイヤルの兩族に就て其一端を書いて見る〜

先づ歷史的變化から云ふと昔は男は耕作の一部即ち荒仕事をやるだけで他部社との戰鬪、出草、狩獵を事とし女は耕作、育兒、機織、食事の世話など過激な負擔に甘んじてゐた所が理蕃政策の宜しきを得、易化に浴する樣になつて以來近々十數年間に著しい變化を來し戰鬪、出草を禁ぜられた男は鐵砲蕃刀を捨てて鍬を握り或は岡沼に造林小渠に、勞働の齎盗に彼等の逞しい腕を生產に投じる事となり完全な夫婦共稼ぎが行はれ理蕃事業は擧げて授產に傾倒される樣になつた

理蕃事業が授產第一となり

生產は進步し複雜化す

此結果生產には著しい進步を見た些か面倒であるが、之を數字で表はして見ると昭和五年度の生產高は次の通りになる

	數量	價格
	石	圓
水稻	七、五〇一	[illegible]
陸稻	二、八八一	[illegible]
粟	四、二六二	[illegible]
甘藷、[illegible]	[illegible]斤	[illegible]
蔬菜	—	[illegible]
雜穀類	—	[illegible]
計	—	[illegible]

右の外に蔬菜が四萬五千五百圓、藤が八千圓、繭が一萬二千圓、水牛五四九頭、黃牛一〇八頭、四三六頭、豚二、二九〇頭あり全人口二、七五二戶、一二、九〇五人に割當ると戶數一戶當り六石七斗六升、一人當り一石四斗五升家畜牛族は十戶に對し七頭一四、豚は八頭二四となり其他交易品、勞銀を金に換算すると一戶當り百三十一圓三十錢、一人當り二十八圓十五錢となり又一日一人當り七錢七厘となつて山手の本島人農家一人當り十錢と比し僅か二錢三厘の差に過ぎず彼等の生活が如何に向上しつゝあるかを知る事が出來る

教育施設

授產事業と並行して教育施設の行はれた事は彼等の生活に精神的にも物質的にも大きな進化を促した花の咲くを見て陸稻の播蒔時期を知り稻の實りを見て秋を知つた彼等も兒童を通して曜日を知り穀物の量を計るに粟の穗を軒先に釣るしたり人との往來の約束に繩に結び目をこしらへて每朝一つ宛解いて行く樣な原始的計算法も殆どなくなつた、昭和五年末の教育所數は二十七ケ所で卒業者は男六百二名、女百六十四名、現在兒童數千二百名で學齡兒童の五十パーセントは就學してゐる、又卒業者中には醫學を出た者現に師範、農林等に在學中の者小學校に共學中の者などがある、以上授產と教育に依り農業一本であつた彼等の職業が漸次複雜になつて來た五年末の調べに依ると公醫二名、巡查十五名、雇三名、給仕三名、助手四十名の月給とり其他大工理髮職、木屋見習、小使、人夫、看護婦と云ふ樣に各方面に進出しつゝある

生活の改善

裸體で素足で日のある內は働き暗くなれば寐ると云ふ樣な單純さは奧地は知らず大部分の前山蕃には夢想だもせられなくなつた生活樣式は最も接觸の機會の多い關係上本島人化され家屋は土塊作りに代り服は洋服服に什器、食器等も殆んど同化され我々と聊も識界と行政地域の境界を識別する事が六ツかしくなつた面白い事には最近奧蕃が米食に大なるあこがれを持つて來たことである、前山蕃は昔から陸稻を作つて食べてゐるが二千尺以上の奧山には米が出來ぬ爲今でも粟を主食としてゐる、然し親戚の祭りや冠婚葬祭に呼ばれた際奧から出て來て米を食ひ又土產に貰つて段々食べ馴れると共に粟の不味さが判り若い娘が首一つ取り得ない樣な男には嫁に行かぬと云つたと同樣米の飯の食へない家へは行かぬと云ふ樣な時代になつた、從つて米作熱が盛んで埔里を作り新段田を作つて米を植高山蕃も移住する事を昔程嫌はなくなつた

未婚の男女をわざと雜魚寐さし

貞操忍耐を修練さす

文化的施設の何物もない淋しい山の中の彼等は何を趣味とし何を以て娛樂としてゐるかと云ふに最も彼等を喜ばすものは踊りである唄である口琴である秋の收穫祭には蕃女が口でかんで作られた酒を飲んで男も女も手を組み合はし一晚中踊り狂ふのである勇壯な出草の歌、哀調搖々たる戀歌、朗かな收穫の歌など深山を背景に松火の光を浴びて宛然原始時代を見る樣な如何にも又限りない喜びに滿ち溢つたものである狩獵期には銃を借り又は弓矢で狩獵を爲し子供は石で鳥を打ち落す事がうまく夜間アセチリン瓦斯を灯して小網で川魚を突くことなども喜ばれる蕃人野球選手の強肩と確實な投球は石投げに依つて養はれたものであると云へる未婚の青年男女間にはムカラマツアベと云つて暗い集會所などで雜魚寐をする事がある然し決して間違ひはない之に依つて彼等の貞操觀念を試み意思を強める手段とするもので一種の修養であると共に無上の樂みの一つともされてゐる然し之等蕃人の原始的な生活樣式が文化の進むに連れ段々失はれて行きつゝある事は或る淋しさを感じさせられる

お茶漫談

日常茶飯事と云ふ言葉がある如く茶は今日我々の生活に餘り近く餘り普遍的に行き亙つた爲とりたてゝ考へない程であり興味も引かない程であるが新竹州は本島最大の茶產地である之に關係する人々が聊かに茶の生ひ立ちを考察する事は强ち無駄なことでもあるまいと思ふ ◇

「茶の木」に依ると茶は一種の審美的宗教であり一種の儀式であつて純粹と調和互愛の神秘社會秩序の浪漫主義を敎へるものである又茶は立派な藝術であり支那の唐、宋、明の三代を經て發達した餅茶、抹茶、淹茶を藝術分類に應用せられた呼稱を借るとすれば古典的、浪漫的、自然主義的な流派となりその最も氣高い味を出す爲には名人を要すると明徹してゐる、茶が始めて支那に藥として用ゐられたのは四、五千年前と云はれ千五百年前から揚子江流域に飲料として盛んに流行した事は文獻にも明らかである遣唐使に依つて日本に茶の齎されたのは千八百六十年前で七百二十九年聖武天皇奈良の御殿にて百僧に茶を賜ふと史に見えてゐる、又茶の樹は八百一年傳教大師が持へて歸り叡山に植たのが濫觴とされ其後榮西禪師が禪と共に茶道を傳へ其際持ち歸つた茶の樹は宇治外三ケ所に植られたと云はれてゐる ◇

茶に關する古い記錄は少くないが其效用としては醫藥と嗜好の兩方面から見られ之を我國の例で見ると時の源實朝が病氣の際榮西禪師は茶の一盞と共に喫茶養生記を獻じたが茶道が盛んになつてから多く武將は戰時の賞として臣下に與ふる土より茶器などの美術品を賜はることを無上の光榮としてゐた、支那にあつては唐の代陸羽なる茶人がありかの有名な茶經を著はし茶の源を論じ製茶の器具、喫茶法を記し茶器、茶の點て方を說いてゐる、其當時は煎茶法が用ゐられ水の沸くを初沸、二沸、三沸と區別し初沸に適度の鹽味を加へ二沸に茶を入れ三沸に少量の水を加へ茶を靜めて茶碗に注ぐと云ふ飲み方が行はれた、次で宋の時代には抹茶が流行して我國に傳はり今に茶道となつて遺つてゐるが支那では戰亂の爲全く其跡を斷ち歐洲人が近々三百年前に茶を知つた爲煎茶抹茶は知らない ◇

翻つて臺灣の茶の歷史を調べて見ると諸羅縣誌に康熙三十三年即ち約二百年前水沙連（今の日月潭）に山茶があるのを發見製造して飲んで見ると支那茶に似たうまい茶であつたと書いてあり北部では明治三十三年發行の新竹調查會報告の石碇には八十年を經た茶の老樹があると書かれてゐる、淡水を中心に茶の栽培が本格的に盛んになつたのは六、七十年前からで當時から見得る限り大屯、七星、觀音を始め州圍の山々は低日一千甲を位ゐ開墾され爲に之等の山は連夜炎々と燃え續けてゐたと云はれてゐる、現在の茶園の分布狀態から考察して見ると淡水河を基點に逆り一は文山、新店、宜蘭方面に、一は大科崁溪に沿ひ三峽、鳥樹林、龍潭、平鎭、中壢更に觀音山から下つて竹東、新埔と與へ僅か幾多の變遷を經て今日の隆盛を見るに至つたものである、六十年前には茶に釐金稅が課せられ當時百斤四十元、五十元と云ふ相場が建てられて米を作るより十數倍の利益が得られ從つて到る處お茶成金が續出して地方の風俗を亂したものである ◇

新竹州下では一昨年茶が賣れないで娘を賣つて茶摘み賃金を支拂つたと云ふ悲慘な話しがあるが一昨年は例外でいい茶さへ作ればいい値で飛ぶ樣に賣れるから茶農者は此の不況に際しても賣る事が明かである、然し茶は藝術品である丈に不斷の努力と研究が必要である同じ品種を使つて出した茶でも十圓で賣れないのがあり百圓でも買れる茶があると同樣、同じ生葉で製造した茶でも一斤十圓で賣れたのがあり九十錢でも賣れない茶がある、そこに云ふに云はれぬ妙味のある事を忘れてはならない

未開發の資源が最も豐かな新竹州

新竹州知事　猪股松之助氏談

昭和七年の新春を迎ふるに當り聊か諸の無窮と御皇室の萬歲を奉祝し得るは同慶に堪へぬ所である追想すれば昭和六年は經濟的に政治的に將又外交に思想に多事多難な年であつた、茲に歲改まると共に我國民は更に雄渾なる氣魄を喚起し勤儉力行して國民經濟の立直しと內外の諸問題解決に努力せねばならぬ、翻へつて本島の情勢を窺ふに領臺以來產業の發達に交通に文敎に其他諸般の文化著しく進步したりとはいへ未だ開發進展の途上にあるといはざるを得ない

◇—◇

新竹州は天然の資源に富み沃野廣大にして奧地には鬱蒼たる大森林を擁し多量なる炭礦豐富なる油田を有し沿海には魚族群り水產物亦多量に產するありかかる天惠豐かな我州は先づ其根本を農產物の增殖に置き此の根幹の上に商工の進展を計るべきである、茲に於て理想を實現すべく多年の研究調查を重ね產業振興の根幹たる治水の開發、米種の改良、農耕技術の改善と水利事業の充實を促進し漸々相俟つて土地生產の飛躍的增進を計りつゝあり米の產額は今や一大躍進の現勢を示してゐるのである、丘陵傾斜地の利用として最も適當とせられてゐる柑橘の栽培は州民の重要產業として獎勵中にあり全島產額の大半を占むる州下の製茶は品種の改良と共に孜々として規格化を圖り技術の改善と工場經營の合理化に努力中である

◇—◇

又農家の副業として有益なる養豚はバークシヤ種に替へんとして獎勵中であるが着々として其實績を擧げつゝあれば近き將來に於て加工用に適する豚肉を市場に供給し得るものと信ず、又淡水油井より噴出する瓦斯は無盡藏なるを以て之が利用は全島的となるべく既に利用の一端として新竹市に引用し各工場及家庭に使用しつゝあり之が利用增大は必然的にして將來刮目すべきものありと認む、沿海には魚族群游し從來之が漁獲に就て試驗中なるも大に期待する所あり昨秋試驗船を新造して海の資源を開くべく研究獎勵に專念しつゝあれば漁業發展の急を叫ばれつゝあるも當然である、叙上の如く無限の天惠あり加ふるに氣候風土等惠まれ產業興業に適する地理的環境にある州民は大に產業振興を計り之に伴ふ產業道路網の完備と共に教育に衞生に其他各般の設備改善獎勵に企圖し文化の進展福利の增進に努めなければならぬ、希はくば州下官民一致協力し克く刻下の時局に鑑み政府の方針に順應し各自其業務の振興に勇躍邁進せられん事を茲に新春の吉辰に當り聊か所懷を述べて迎春の辭に代へる次第である。

新年詠

尾山篤二郎

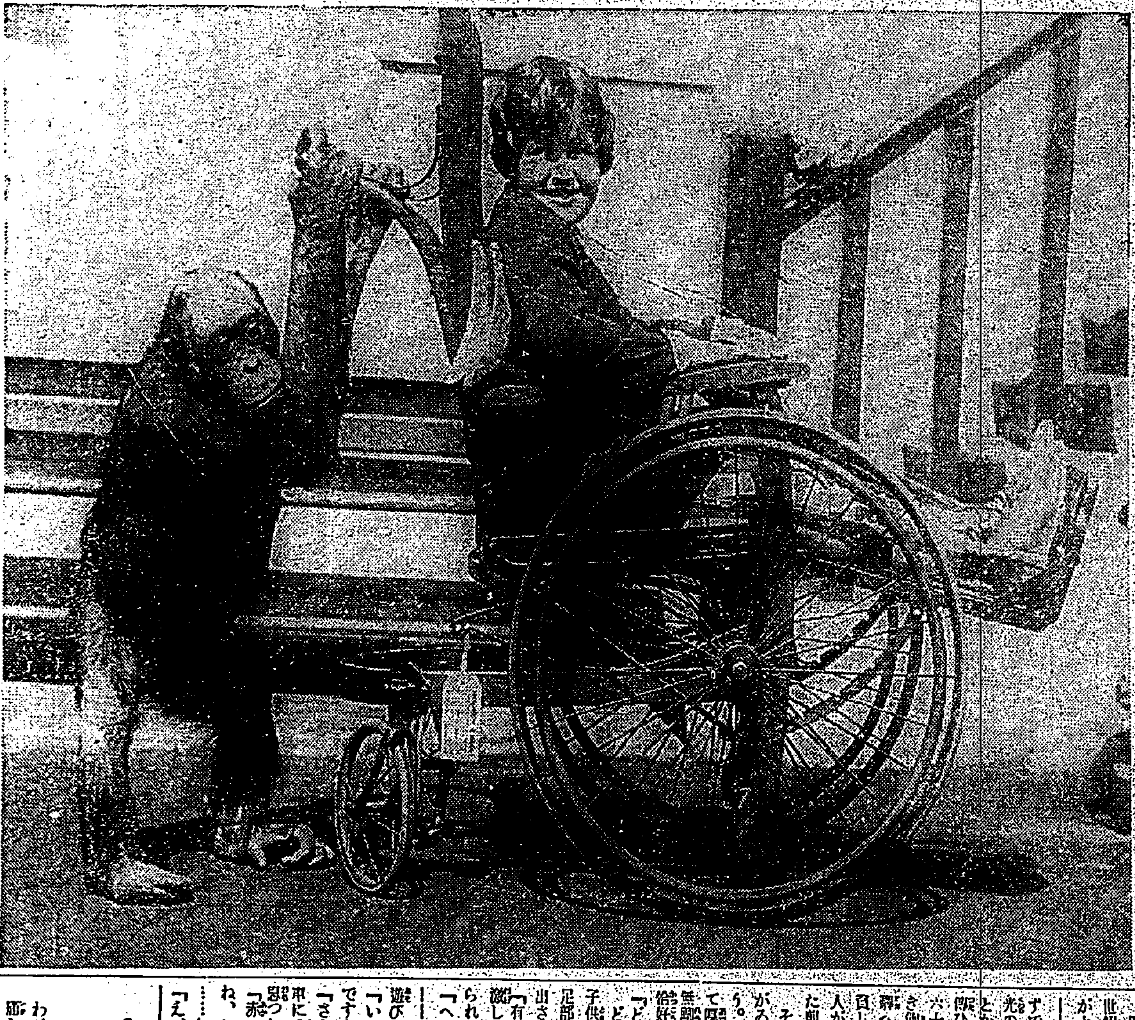
面白きこともなき世に侘び侘びて住みふるしたり四十路まり三年

今年もゆかんとすなり世の中の大きうごきを目のあたり見つつ

世相の險しさのみを云ふなかれ此處に至れることはりをわれも

老いづくといふにもあらね四十路まり四年の春をもとなむかへつ

年たちて改まるとも斯くあれば措とき春の早來ねとのみ



お猿の搭車リーヤ

足のわるい若い主人を車に乘せて押して歩くお守り兼搭車リーヤといふ恰好です（米國加州）

病む子をまもりて

若山喜志子

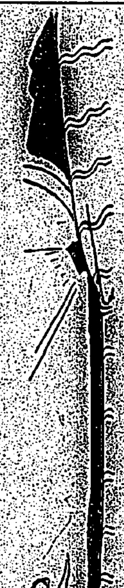
わが男の子に待ちし二十歲の春は來つれ病にふしてあるがかなしき

[illegible]みくる熱にたえがたみうめくわが子をまもりて久しき

夜重く盛りそなれば定まりて痛みまし來る子の病あはれ

夜半より曉にかけ必ずも痛む子の病にやせはてつ子は

病める子の手を拭くとして生命線のたしかなるを見つ心あかるき



ユーモア小說

圓タク婆さん

辰野九紫

須山計一畫

一

馬鹿正直が通りもののお百姓も世知辛くなると、なか〳〵掛引きが上手になつて油斷が出來ません

——やがて東京へもう二時間足らずで着かうといふ汽車の中に、日光の山奧から初めての上京で本所とかの娘の嫁入り先きへお盆の手傳ひに出掛けるらしい丈夫さうな六十近い屈大の老婆が一人旅に倦き倦きして相手欲しやの折柄、某驛へ着くと四歲ぐらゐな子供を背負した五十過ぎのお主婦さん風の人が乘込んで、丁度一つ空いてゐた前席へ陣取りました。

その町には田舍で有名な接骨醫がゐますので、其所へ通ふのでせう。——子供は右足に副へ木を當てゝ見るだに痛々しい姿をしてゐます。

「どうかしたんかね」

無聊に苦しんでゐるお婆さんには恰好のお客様ではありますまいか

「どうかしたからこそ、えらい頭の子供は十重二十重のぐる〳〵卷の足部を、ねんねこ袢天の外へはみ出させてゐるのでせう。

「有難う御座います。餘り惡戯が激しいものですから、自轉車でやられまして……」

「へへえ、町の子は發明だねえ、——こんな嬰兒の時分から自轉車遊びをするだかや」

「いいえ、あなた——轢かれたんですよ」

「さうかね、俺アまた此子が自轉車に乘つて、おッ轉がつたんかと思つただよ。——幾歲だね？」

「赤ン坊の時分長病ひをしましてね、これでも辰生れの六歲なんで……」

「え、六歲？」

と老婆の驚くのも無理はないでせう。——誰が見ても四歲でせう。それでも流石は年の功、即座に立ち直りました。

「六歲十歲は狸穀潰り、學校へ行くやうになりやでかくなるだア——なア、坊や——兵隊が危ねえぞ。」

「あら、いやですよ。あなた——これでも女の子なんで……」

「なるほど、道理で、いくら町の子でもちいッと着物が赤えと思つただ。お母さんの末ッ子かね？」

「まア、うまいこと……孫ですよ」

「なアに、そんなことはねえ。まだ一人や、二人生んでも上かんべえ」

「どうして……、隱歲も誤ひませんよ。」

「この俺とかね？うまいこといつてるだ。」

「いいえ、ほんとですよ。私はこう見えても、もう四十ですもの……」

「四ッてえと四十四かね？」

「えへへへ、あなたは！」

「俺ア來年丁度でがんす。」

「それ御覽なさい。たつた五歲しか違ひませんでせう。」

「ひやア。……それで五十四？まさか、町の人は若いね。」

「いいえ、あなた、さん〴〵苦勞させられまして、すつかりお婆ちやんになつて終ひました。」

「そんなことはねえ。誰が見たつて孫持ちとは思はれねえだよ。——なんて彼だんべえ、器量のいい人は……」

すつかりお土砂を掛けられた彼女は、自宅への土產らしい名物の餡麵麭を五六個割愛して、話は道作れのいろは歌留多を連發したやうな、いい心持で次の次の驛でサヨナラをしました。——婆さんはにや〳〵しながら、お世辭の代りに殘つたものをバリ〳〵嚙みしめてゐます。

二

それまで隣席で雜誌を讀んでゐた男が、その達者な國に感心致しました。

「お婆さん——なか〳〵いい國だね。」

「はア、駄目でがんす。昔は米の一俵くれえ擔へたもんだが……」

「ははは、女力士みたいだね。」

「村の衆もさういつただけんど、俺ア若え時にや、こんでも女力士になるほどの馬鹿な器量ぢやなかつただ。」

「現在だつてそんなに惡くないよ。」

「ヤンだ、俺ア……旦那もうまいね。」

「いや、ほんとだ。——あの先刻のお主婦さんと五歲違ひなんて嘘みたいだ。」

「さうけえ……上術、俺ア何にも持つて來ねえだが、これでも喰つたらよかんべえ」

と差出した老婆の風呂敷は、自分で喰ひかけの餡麵麭半分！流石の彼も辭退せざるを得ません。

「ははは、折角だけどこの通り入れ齒だ。」

これでどうやら話の緒がつきましたので、婆さん大悅びです。

「東京は面かんべねえ、旦那——」

「面いとも——宇都宮の三十倍も大きい。」

「ひやア、驛舍が三十もあるだかや。」

「いや、そんなことはないが、初めてだと番地を探すのが大變だ。」

「なアに、旦那——俺ア自動車で行きますだ。」

「ほほう、えらい景氣だね。」

こんな時の用意の爲め、聯錢も多少貯めてあるので、娘の亭主野郎にわざ〳〵工場を休んで出迎へには及ばぬと、代筆で斷り手紙を書いて與れた村の物識りが、親切にも圓タクの値切り方まで敎へたとか、案外ガッチリした婆さんでした。

きな風呂敷包みを抱へた老婆が上野へ着くと、大きな驛の出口に押寄せる自動車の客引きに眼も呉れず、とく〳〵大通りの方へ出て、丁度來合はせた一台の車へ手を擧げ。

「本所××町まで、これでよかんべえ」

と一本指を示しましたので、運ちやん內心ほく〳〵もので、丁寧に頭を下げて歡迎致しました。

「俺ア東京は初めてでねえだ。しッかりやつてくらッせえ」

「へえ、畏まりました。お婆さんみたいな物わかりのいい人ばかりだと有難いです」

と有難いです」

合客が、わざ〳〵車を呼び止めて正札通り一圓で先方樣から乘つて頂いたのだから、これ以上のお客大明神はありますまい。——彼は最大の敬意を拂つて、この見すぼらしい老婆を指定された××町まで運びました。

「お待ち遠うさま……」

「ひやア、もう本所かや。ちッつと早過ぎるでねえか。」

「ははは、お婆さん——東京は初めてでないんでせう。」

「そりやさうだけれど、もう一寸廻りしてもよかんべえ」

と未練らしく自動車から降りた老婆は、そこで約束の料金を拂ひました。——運轉手ペコリと頭を下げるかと思ひの外、

「オヤ、お婆さん——こりや何です？」

と頓狂な聲——掌には十錢白銅二箇が光つてゐる始末ではありませんか。

「お前——驛前からそれでいいと云つたぢやねえか。」

「冗談ぢやない。誰が十錢で本所くんだりまで來るもんか。——それぢやお飯が喰へねえや。」

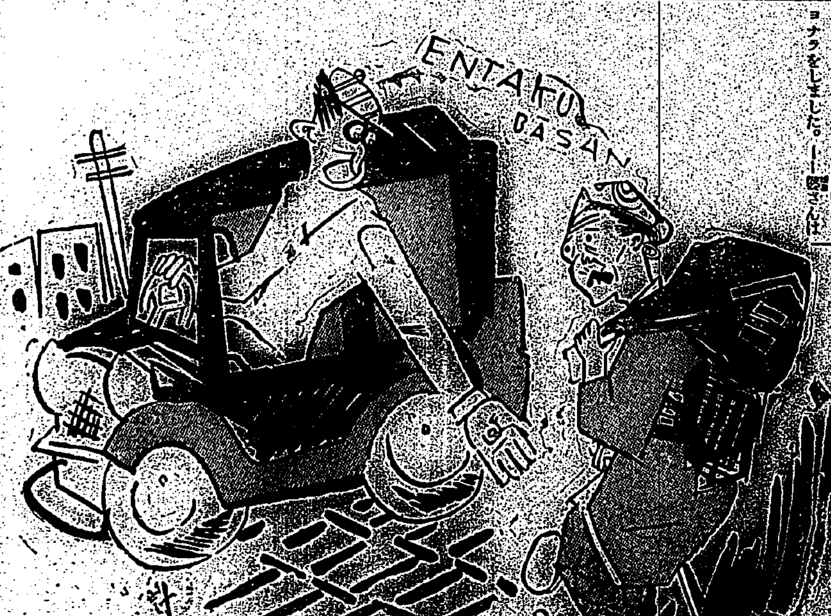
「馬鹿こくでねえだ。それだけ米を買つて見ろ。——お前みてえな色男にや澤山だんべえ。」

「あはん、お婆さん僕はそんなにいい男かい？」

「さうよ。俺がもう十年若けりやタダでも置かれえだ。」

「うわア……助けて呉れ。——」

聯金には代へられねど、運ちやんはハンドルを離して一目散！



薩南巡遊

河東碧梧桐

枚聞神社

正月へ着きそべる神籬あたりをな鈴島の森

池田湖畔

開聞岳頂もたけ左かしぎの餉なか紅雲る

指宿温泉

温泉浴ば湯餘ばなしの蕃語の聲きすやをかし

同

民馬鬼を喰ると陰部を磯明りとな

金鑛所見

鑛工叭內はふる雪の馬夫のうさはらじ呀ゆ

臺灣產業津梁（二）
試用白金屬陽素
增收水稻二三成

愛知縣知多郡小鈴谷村字坂井伊東右人翁。各秋於用一段之地。試用白金屬陽素。以謀增收。迄米大成。仍川也氣。分解白金屬物。含之黑曜石。取其如粉末之陽素。投之稻苗根本水面。常如太陽放射之作用。水田可加三四溫度。則苗勃然長。莖葉強硬。而穗亦大。且以抵抗病蟲害。多收三成。村中第三小學校實習田。試之亦然。所收略同。縣農事試驗場聞之。客臘八日。特遣立木技師現場視判立會。成績頗著。翁壽高七十有二。元氣尚壯。且選國中。彰徵誘云。

不毛之地
開爲良田
多鑿井灌溉

靜岡縣三方原。耕於平均高三十米突。灌溉之水。難於開闢。經農林省。利川地下水。試插水稻。乃知其地質水脈。鑿之可爲良田。附近八町村農民。爲創耕地整理組合。客春水。第一期計畫。先開百七十五町地。鑿百十七井。藉動力揚水灌溉。究竟一段平均收六七俵。販高原反八千町。盡可開拓公用。組合員。皆納於米倉者。皆適井水。一年灌溉一二町地。井深三十四五尺深。揚水首用電力。配線工事雖困。則用發動機。而事業資金。告貸低利者。計仰縣費補助。一非開一二町川。計費七萬一千二百圓。本縣縣費內容如左

鑿井費　三三、〇〇〇圓
揚水設備費　二四三、〇〇〇
動力設備費　一二〇、〇〇〇
水路費　一一、〇〇〇
開墾費　二二〇、〇〇〇
事務費　一〇六、〇〇〇

開墾前價值二萬八千二百八十圓。後則值二萬三千二百圓。兩值二萬五千圓。從此一二年。設備周至。一段可收八九俵云。

堆肥用培養菌
一立方坪
只費三四錢

香川縣農會。最近以靖岡縣堆肥速成菌。於香川郡一宮井村。驗以好成績。與縣農事試驗場。於辨堆肥菌培養機。此菌一川。僅三十日間。使成堆肥。一立方坪。只費三四錢。縣農會。初擬川磁安堆肥以圖省費。及試用之。更有利云。

火力乾燥功效大
一石粟一晝夜經費
不過開十五錢內外

愛知縣渥美郡田原町大久保農川共同經營組合。以大日不足。以乾燥米粟。改用火力乾燥機。大有成績可觀。最近以二千餘圓。設備三林式穀物火力乾燥場。機器於粟殼。一晝夜乾燥。六十石。至八十石。直可收藏於農倉。餘力川於養鷄。其他副業。乾燥機使用經費。電力一時間一基羅五分。一晝夜三十六基羅。一基羅三錢。計一圓八錢。粟殼一時間三貫。一晝夜七十二貫。一貫一錢。計需七十二錢。工資二晝夜兩人。二圓四十錢。機械油約二十錢。合計四圓四十錢。一晝夜乾燥六十石。粟一石僅需七錢五厘。加算償却費。保險料。修繕費。及利息等亦不過十九錢內外。得以完全乾燥云。

保存玄米
必十分乾燥
善發芽多養分

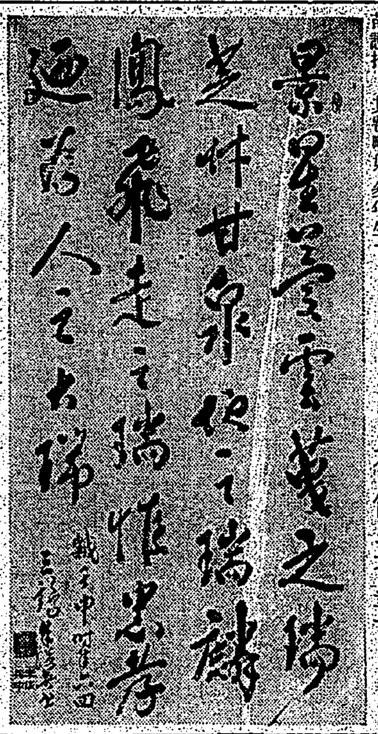
倉敷市大原農業研究所。研究糙米發芽力之有無。與養分之關係。經已完成。其發芽力充足者。多養分否則少。究竟米之水分含有量之多少。可以左右之。昭和三年度米。百分中含有養分十四至十六者。必發芽力充足。二者關係特大。是故收穫之時。必曝之十分乾燥。乃能完全保存其發芽力。而豐富其養分。此後米之眞價。所以決定者。類視養分之多少云。

警告農家
改良米庫
防虫害變質

廣島縣深安郡農會販賣斡旋部。客秋於新米入倉之時。勸告農家改良米倉。其法如下。床下一間半。大小風窓。設一個以上。一平方尺以上。床上所設。亦一平方尺以上。天井下設四個以上。三平方尺以上。床下造三合土三尺以上。設倉排水。川防濕氣及蟲鼠害。日光直射方面。亦須植木建屋。以資遮蔽。西畔以外。如或植木。反致防濕。炎熱之時則宜密閉完全云。

造杉林
事業至安全
經費多節省

山形縣新庄營林署。昭和二年以來。於六百四十町地。栽百七十萬杉。是爲一年生造林。比之舊時造法。既非眾多。且經費省三分二。床地一平方米種杉苗約二百本。施肥探雨後濕時。一町二十五步投已腐大豆粕六十八瓦。過燐酸石灰五十六瓦。木炭六十八瓦。堆肥百八十七瓦。掘苗毋傷根。並不宜乾燥。一年生造林。栽苗護持。其費略如乡年生

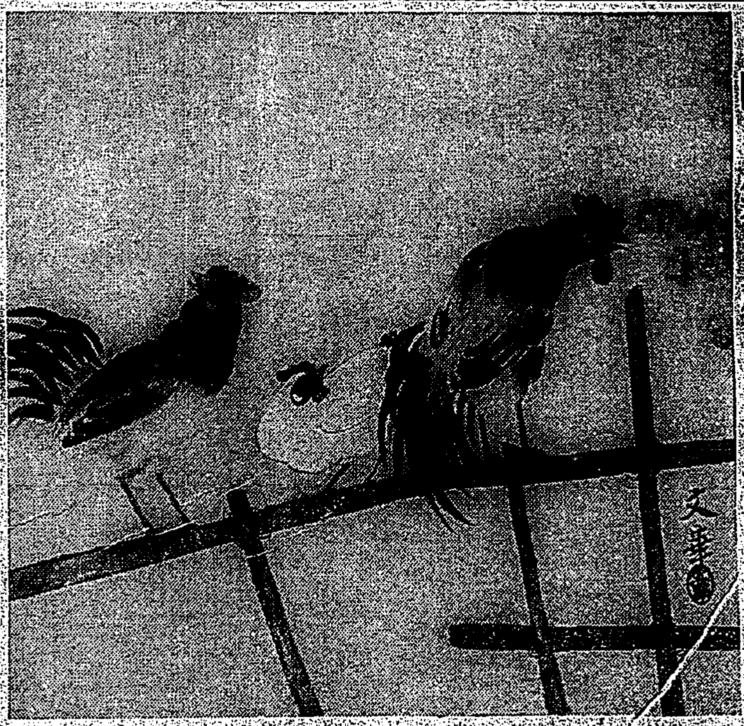

景星慶雲氣之瑞
芝竹甘泉植之瑞
鳳飛麟走動之瑞唯忠孝
通於人之大瑞

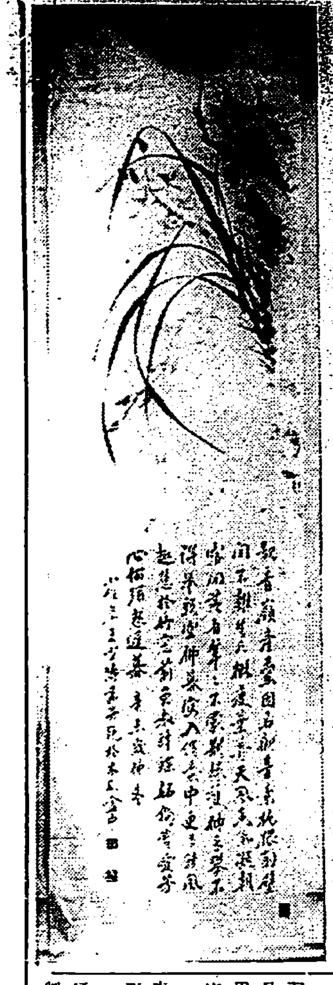
臺北　朱俊英畫

初年地床掘一尺八寸平方。不爲雜草所厭。發育較早。發草耘鋤。務於秋葉未落前云。

梨種一段
年收六百五十圓
遠勝於米播二町

奈良縣宇智郡野原町。去年種梨。二十世紀。地一段平均收八百貫。値六百五十圓。支出百三十六圓三十五錢。純益五百二十三圓六十五錢。比之米一段收二石五斗。值九十圓。其利不啻十倍以上。詳之如下。收入六百五十圓。一個八十匁。平均八百貫。支出果樹消毒藥資十六圓。工資二圓。肥料二十六圓。選別運費三十圓。公課一圓。選定費五圓六十錢。耕作費五圓六十錢。施肥工資二圓。耘草工資二圓四十錢。包裝材料及工資三十圓。器具十圓。雜費五圓六十錢。仰梨種一段遠過於米播二町之收穫云。


曉鷄聲　文華畫


臺北　雲滄　王少濤畫

昨年全島大事記（二）

四月

一日　三四月之交。全島行政司法教育各界官員大異動。高級退官者甚多。

十四日　高橋總務長官因若槻男辭組閣。棄轉警視總監。

十六日　長崎縣知事木下信氏。任總務長官。

二十五日　斗轉番（白狗土匪）久爲霧社番所壓迫。窓欲復讐。今朝襲擊路過收容中保護番。放火于番社。馘首保護番二十六名。同時斗轉番百餘名。襲擊斯波收容番。盛行放火。今回死者百九十七名。行衛不明者二十六名。就中約三十名歸回。其餘似已縊死。

二十六日　三輪警務部長。急收回貸與銃九十挺。彈丸二千餘發。押收首級百一箇埋葬之。

五月

八日　督府勅任級大異動。石黑殖產。杉本文教兩局長。片山臺北。名尾臺南。川端新竹三知事依願免官。其他補充大異動。

十六日　第三次大異動發表。府州課長部長數十名更迭。

二十五日　元瀧口檢察官通譯吳阿祿受賄公判。本日起三日間。開于臺南法院。關係者四百名。

六月

五日　賀陽宮恒憲王殿下爲陸軍參謀行軍來臺。

前檢察官瀧口民三。通譯吳阿祿坐行賄。石橋檢察官長。各求刑懲役。

九日　爲反對加俸減額。中瀨專賣局長上京。自是以來。島內官吏囂々。反對減加俸。

十八日　賀陽宮殿下御離臺。

二十六日　電力工事外債成立。發行價格九十三弗半。總額二千二百八十萬。利率五分五厘。

七月

一日　全島酒煙草賣捌人更新。

臺灣軍增兵問題。三長官會議決定。檢米規則改正百五十斤裝改爲百斤裝。

二十三日　蓬萊米隨期米暴騰。八月五日限百五十斤起至十圓。

二十六日　上午三時半。高雄州潮州郡潮州庄日新樓料理店。有凶犯三名侵入。殺傷店員家人十名。即死四名。兩名未幾亦斃。二十六日午後八時半。元兇蔡聽成。在潮州驛被捕

曉鷄聲

黃道中

喔喔遊庭趁曉呼。喚醒塵夢感雞奇。悠揚雅韻徹金鐸。宛轉和風颺旭旗。起舞功能培士氣。鳴諧報曉朝儀。頭戴雄冠出扶桑上。聖德光輝及四陲。

○[illegible]

[illegible]動聽瑤琴。[illegible]唱。絳幘司晨報五更。僊客過關偏反早。賢妃戒旦訝朝盈。祖劉奮起頻聞舞。龍衛征趁月明。

○陳旺同

喔々如聞第一聲。得時自京聽天鳴。八荒人士方知曉。萬里河山欲啓明。韶遞扶桑新旭上。晉廻遠爲慶雲生。喚他大夢誰先覺。踐起同奮報國誠。

○陳祖香

萬家背夢爲誰驚。好是金鷄報曉鳴。逸韵欣聞屆四境。壯心思奮舞三更。曉星戒旦開延戶。待漏趨朝仰國京。閶闔千門宮殿啓。龍飛虎拜漫呈盈。

○陳濟昌

大地依稀曙色生。天鷄高唱得時鳴。喈々詔北催花鼓。喔々音同舞鳳笙。俊逸八方開瑞靄。悠揚四境報黎明。恐君喚醒殘年夢。齊向龍樓頌太平。

○陳振基

長鳴德爲起蓬萊。喚醒人間萬戶開。千道祥光隨日出。一門淑氣自天來。膠々唱徹春雲迸。喔々啼殘曉漏催。最喜履端聲報瑞。無邊生意眼前回。

○劉濟卿

百僚濟々聽鷄聲。銀燭催殘既四更。五德堪誇時最悅。一心勸定刻方鳴。通明殿上香烟爐。報曉宮中漏水傾。喚起扶桑新日出。衣冠朝賀滿神京。

○劉文和

司晨不失引吭鳴。鼓翅知時喔々鳴。憶自驚回茅店夢。記曾喚起玉關情。九天唱徹千家曉。五夜聲聞四野清。無愧德禽能守信。大家喜汝報天明。

○林搏秋

明堂蒲廟唱金鷄。五德朝陽與鳳齊。報曉聲々通四境。司晨信々警東西。双揮勇距群雄鬪。一唱良音百鳥啼。賴汝聲生知惕勵。青雲及早得登梯。

○羅南溪

雞禽頻報幾深更。瑞霜東方一抹橫。喔々煙村初曙色。喈々茅店午黎明。使晨殘月和霜白。破曉徵聲入耳清。次第應天幾唱罷。旭光處遍滿城晴。

○劉汝淸

禁園深鎖御爐煙。靜待龍飛紫詔宣。玉漏催殘遙夜月。金鷄唱徹五更天。司晨心警昂頭叫。報曉姿雄鼓翅連。喚起九重門大闢。衣冠文武侍君前。

○陳元亨

喔喔聲中大夢醒。扶桑翹首日初明。九天閶闔開宮殿。萬國衣冠拜聖京。三唱[illegible]百鳥。一聲宸意[illegible]。貢球共祝新禧象。[illegible]頌太平。

おめでたう

臺北 集英旅館
株式會社 和榮商會 臺北
和洋指物商 新嘉頴號
貨物自動車運搬業 臺北運輸公司
羽榮發商店 蔡榮桂
天幕シート加工一切 吳協勝商店
協志商會 林焜灶
周東茂商店
臺北 永樂座
新集益商行
阿片煙膏賣捌人 黃金生
臺北市協議員 黃玉對 電話七二八番
新恒德商行
株式會社 永裕茶行 臺北市日新町 電話一〇二三番
賀正 共成工作所
聯發商行
許智貴

臺北 大安醫院
勝芳商行
東陽製菓部 東陽物產商會
臺北 運輸部
包種茶烏龍茶 榮興產業株式會社
張東隆商行 臺北市太平町
臺灣料理 江山樓
藥種輸入商 吉元藥行 臺北市港町二丁目八番地 電話二七七七番 振替五〇五五番
臺北市醫師會
藥種問屋 日星堂藥房
火葬行列 張義英
有限責任 艋舺信用組合
訓眉建業株式會社 臺北市大正町三條通り 電話二九二〇番
蕃薯商店
臺灣興業信託株式會社
公債株式米穀販賣 登和商店 電話四一九四番
大稻埕唯一のカフェー アルテルカフェー
謹賀新年 スピード石鹸製造元 ドーピス 義和揚商會
臺北北理髮營業組合
清秀影片公司

蔡法平 臺北市御成町四ノ一番地 電話五一八番
陳振能
林熊光
楊木新
親切第一 [illegible]會館
進輪自轉車商店
大有物產株式會社 臺北市永樂町二ノ五四
恭賀新禧 臺北市永樂町 李延齡
謹賀新年 臺北市永樂町三丁目一四 乾元藥行 陳茂通
臺北商業會副會長 陳天來
鄭榮發兄弟紙函商會 鄭山猪
御旅館 嘉義閣
調味料製造法 ホシ看板店
馥泉製氷株式會社 臺北市下奎府町四 電話一八一〇番
捷裕參莊 元裕商行 榮裕 張清港
染料雜貨卸商 林揚川商行 臺北市太平町三ノ一四二 電話一七七一番
羅紗綿布卸小賣 張亦泰商行本店支店 臺北市太平町三ノ二

明治對CBの對戰で 圓山に大觀衆殺到

萬雷の如き拍手に兩軍入場

一月二日！明治對CB對戰の日だ、今日は初夏を思はせる陽光が圓山球場の芝生に映えて南國の綠が濃く浮出てゐる、新設された外野の柵が凱然と球場を包む、スコアーボード左のメーンマストには日章旗と本社々旗が僅かに微風を受けて翻つてゐる、明提つかCB提つか此一戰を見んものとファンの流れは圓山へ……市營バス、圓タクの洪水だ、機動車も好球家連を迎ふ、正午スタンドは既に立錐の餘地なき迄埋め盡される、外野のスタンドも滿員の盛況だ、旅館吾妻を出た明大選手一行は自動車に分乘、正午圓山球場に到着、スタンドには期せずして明大軍を迎ふ拍手が湧く、岡田監督を先頭に入場、直ちにウオーミングアツプを開始、打撃の練習を終へる此時CB團選手も內田監督を先頭に入場練習に移る、CB團は內田監督のノツクで鮮かなシートノツクを終れば代つて明大軍は岡田監督の鮮かなノツクで守備練習を始める、近藤眞野、三壘渚野、二壘布合、一壘鈴木等が輕いフヰルデングを見せてファンを喜ばせる、左翼松井が外野柵逸りから直球ワンバウンドでホームへ矢のやうな球を送る、期せずして拍手の波、練習を終つた兩軍選手は軈てベンチから現れる、一壘側からCB、三壘側からは明大も現れて本壘を挾んで挨拶を交はす、天知球審の力强い『プレーボール』が宣せられた、時に午後一時四十一分、壘審は一壘橫澤、二壘大澤、三壘飯島の三氏、明大先攻第一打者岩瀨はバツターボツクスに入つた

9—5 明大堂々大勝す

CBの奮戰も遂に及ばず

	一	二	三	四	五	六	七	八	九	
CB	0	2	1	0	0	2	0	0	0	5
明治（先）	0	0	2	0	1	1	3	1	1	9

試合經過

第一回（明大）岩瀨中飛、[illegible]

第二回（明大）松井左飛、[illegible]

第三回（明大）鈴木中飛、[illegible]

第四回（明大）河野中飛、[illegible]

第五回（明大）中尾一邪飛、[illegible]

第六回（明大）松井右[illegible]

第七回（明大）中尾四球に[illegible]

第八回（明大）鈴木三[illegible]

第九回（明大）[illegible]

[illegible]

寫眞說明（上）は眞崎軍司令官（下）はスタンドを埋めた觀衆

◇[illegible]

軍司令官其他 諸名士來觀

婦人席も賑ふ

この日のメーンスタンドには眞崎軍司令官が小林副官を隨へ來觀し[illegible]

スタンドからの展望

◇明大軍今日のチーム編成は外野は松井、河野、中尾のトリオ一[illegible]

[illegible]

圓山球場の 遺失物

二日圓山球場にて遺失品左の二點本社に保管してあります[illegible]

八十川投手 二日離臺

嚴父の病氣で

明大野球部八十川投手の嚴父は三十一日危篤に陷つた[illegible]

三日の二回戰には 是非勝つ覺悟だ

渡邊鐵團主將の談

明日三日の對明大二回戰には是非捷つ覺悟です、選手一同は必勝を期して出場しますから三日の一戰を期待してください[illegible]

明治對鐵團第二回戰

三日午後一時半試合開始

圓山球場に於て

明大野球團第二回[illegible]

本社の福引會（上）は山と積れた景品引換場（下）右は特等に當つた李氏英さん左は、二等の與那國正一君

恒例による二日の 本社の福引會

特等當籤は李氏英さん

山のやうな景品は讀者の手に

恒例によつて行はれる本社讀者優待の新年開運福引きは、正月二日午前十時より本社大玄關を開放し擧行されたが、一九三二年の幸運をめざしてあつまる讀者又はその家族は定刻前[illegible]場たる本社玄關前から[illegible]と長蛇の陣列を敷き[illegible]京町本通りにつながるもの凡そ萬餘、本社に於ても石廊支配人、長谷新聞部長外係員が山と積まれた景品を抽籤係につぎつぎと渡し、全くこれこそめまぐるしき情景を呈し五等以上に對しては特に鈴を鳴らし景氣を煽り、先づ四等が當籤したのをはじめ、午前十時四十分頃になると臺北市東門町一ノ二二九李[illegible]氏の二女李氏英（一〇）さんが斷然特等を獲得したが、この思ひがけない幸運に本社側より「わアツー」といふ凱歌が揚がる。當の李氏英さんはこの幸運に呆然として[illegible]

元日の參拜者 一萬七千人

元旦の臺灣神社は非常な賑ひで[illegible]

基隆支局の 福引

【基隆電話】基隆における恒例の讀者開運福引は二日午前十時から本社支局前において行つたが[illegible]

白眼視

[illegible]

新竹支局の 福引

【新竹電話】新竹市における本紙愛讀者恒例の新春開運福引は快晴の二日午前十時から新竹市本社取次店において開始されたが[illegible]

左の如し

臺南支局の 福引

【臺南電話】[illegible]

高雄支局の 福引

【高雄電話】恒例による高雄市の本社讀者開運福引は二日午前十時から高雄取次店で行はれた[illegible]

東京大歌舞伎一座 御禮 [illegible] 上演 佐野興行部

謹賀新年
昨秋以來本紙上を以て新年の御挨拶申上候
老[illegible]儀禮の段御寬恕被下度候 敬具
壬申元日
東京にて 赤石定藏

賀正 初賣 一月四日、五日、六日 半額は無代となる 寶のつかみ取り 景品抽籤券も差上げます 臺南市本町三丁目 丸全吳服店

基隆市 [illegible] カフエー松竹

婦人オーバー專門 ミツエ洋服店 臺北市大平町二[illegible]

明けましてお目出度う 本年も相變らず御引立願ひます ▼高級貸自動車（五十錢タクシー） キング自動車商會 臺北市新起町一丁目

森永ミルクチョコレート 五十錢 [illegible] 森永パラマウントチョコレート [illegible]

臺日主催 明大野球戰 面白い懸賞!! 當てごらん 問題 (A)臺灣野球團は何回勝ち (B)臺灣野球團は何點得ますか [illegible]

臺灣牛乳會社 大平誠治

渡邊甚吉

日光商會

[illegible]

漢文臺灣日日新報

二日宮中拜賀第二日
兩陛下皇族殿下出御
受有資格者同夫人拜賀

二日東電。宮中于二日午前六時半。在賢所三殿。如二日舉行二日祭。九條掌典長。依恒例。爲天皇陛下御代拜。同七時。午前十時。于正殿。一如元旦。舉行第二日拜賀。天皇、皇后兩陛下。並各皇族殿下臨御。照宮中席次。受第三階第二十八至三十七有資格者。同夫人。勳二等三等之外國人同夫人。一一列立拜賀。

觀望形勢湯玉麟
近已決意獨立
連繫東三省將備宣布

奉天一日發電通。在熱河觀望形勢之湯玉麟。已決意獨立。近日中與張學良絕緣。而與奉天、吉林、黑龍江省連繫。將備宣布天下。

匪賊襲擊白旗堡
由我軍交戰擊退
新年劈頭開始討賊

一日白旗堡電。一日午前五時。匪賊數十名。自白旗堡西方襲擊。經我軍交戰三十分後擊退。右匪賊于三十一日晝夜。頻來擾白旗堡。新民府間。白旗堡附近姬路○○中隊。與柳家溝駐屯○○部隊。自一日早曉。爲新年劈頭開始匪賊討伐戰。又三十一日夜。自打虎山歸還之我軍列車。在饒陽河附近。被匪賊來襲。爲之擊退。

學良所募別働隊
威脅我軍背後
事態究不許觀樂

二日天津電。散在錦州一帶東北軍約四萬。全部完全撤退與否。殊爲疑問。蓋以學良。自客秋以來募集別働隊。多至十萬。其中約六萬。以錦州爲本據。將爲我軍背後。今後將與變換正規兵。殊應蠢動。東北軍表面雖撤退。而其態究不許樂觀。

撤退兵若不害僑民
決不阻止其行動
我司令發出聲明

一日天津電。因鑒于錦州軍撤退。山海關方面形勢險惡。碇泊秦皇島之第○○驅逐隊司令○○中佐。對山海關駐屯第九旅長何柱國。于三十日。發聲明如左。我軍派軍艦驅逐艦。碇泊秦皇島。此目的在保護居留民。東北撤退兵。若不危害我居留民及守備隊。決不阻止其撤退行動。

前衛隊西進
不見敵影

一日溝幫子電。一日朝。出發溝幫子之多門師團及嘉村旅團前衛部隊。西進如入無人境。午後五時。到大凌河（錦州東方三里）左岸。今夜于此處宿營。按二日早朝入錦州城。

室第○師團
下令討伐
出動某方面

一日奉天電。奉天室第○○師團。一日對溝幫子以西匪賊。下討伐命令。室中將于二日朝。由奉天出發出動某方面。

匪賊討伐軍
進大凌河

一日奉天電。軍司令部發表。據一日午後四時。飛行隊報告。匪賊討伐軍。一日午後五時。以先頭隊。進出大凌河。

我軍如入無人境
錦州城內極寂寞

一日大石橋電。據一日出發偵察飛行大西。高橋兩大尉搭乘○○機所齎情報。我軍○○師團及○○旅團先頭騎兵部隊。沿北寧線如往無人境。南下石山站驛附近。而大凌河防禦陣地。殆不見敵影。錦州城內。亦極寂寞。錦州至山海關間。依然有滿載軍馬數列車。向關內疾走。敵裝甲列車。總有一兩車在連山驛。連山至錦州各驛。見有二百至五百各部隊。似待列車輸送。

督府新年
拜賀式

總督府。於元日午前九時。在府內會議室。舉新年拜賀式。太田總督。服大禮服。入式場。次木下長官。各局長。高等官。亦於定刻。一同著席。太田總督。對御眞影拜禮。次長官以下。順次奉拜退場。於是閉式。次府內判任官一同入場。判任官總代屬村岡。向總督。述新年祝詞後。各五人一組。奉拜御眞影。以次退場。同九時半。閉式。又勅任官及奏任官。各自對宮中。奉呈新年賀詞。判任官。自總督奉呈賀詞云。

臺北市官民千餘名
盛開名刺交禮會
三唱兩陛下萬歲而散

臺北市役所主開臺北市官民新年名刺交禮會。元日上午十一時十五分。依例開于鐵道旅館。太田總督。眞崎軍司令官等。官民凡千五百餘名參會。定刻內海市尹。朗讀新年祝辭。次諸問對在滿洲及支那沿岸。保護帝國權益之本庄關東軍司令官及香椎支那駐屯軍司令官。津川第二遣外艦隊司令官。以臺北市民。發慰問電報。滿場贊成。次開宴。合唱國歌。終則太田總督舉杯。三唱天皇、皇后兩陛下萬歲。一同和之。至十時四十分。盛況裡散會。

臺灣鄉軍
募七萬餘圓
購飛機獻納

臺灣在鄉軍人。際明治十五年一月四日。下賜軍人勅諭。五十週年。逢定限至本年二月。募集義金七萬餘圓。購入飛行機一臺。命名曰新高號。獻納于陸軍。以使用于滿洲軍。募集方法。不問團體個人。經該地在鄉軍人分會。途到支部長。又以總務長官及其他有力者。爲贊助員云。

新竹郡舊港
國旗揭揚臺

新竹郡舊港庄。此回由林植生。彭逆春等氏。外附國旗揭揚臺建設費。併由教職員。及學童等之共同勞力。在舊港公校。自十二月一日興工新築。日前告竣。即於元月一日。舉國旗揭揚併落成兩式。

因我軍急速進出
請湯玉麟入熱河
錦州軍引退關內

一日奉天電。錦州軍。因遇我軍急速進出。對熱河湯玉麟。再三請願入熱河。然與張學良斷絕關係之湯玉麟。斷然拒絕。爲是錦州軍。乃通過山海關。引退于關內。

大阪朝日兩記者
在盤山被匪賊慘殺

一日大連聯合。朝日新聞社油井義雄。伊藤義光兩氏。去三十日。自營口出發赴盤山方面。由是不知去向。至本日始悉于南小房心附近。被匪賊狙擊。伊藤氏即死。油井氏胸部受傷被拉致後慘殺。

遊春士女
往來頻繁
店舖休業

元旦以來。天氣晴朗。雖雲四布。稍加冷氣。將及正午。始放晴。先是三十一日。市營乘合車。圓山間。終夜運轉。臺灣神社參拜。相續不絕。朝來遊春士女。盛裝于路上。往來頻繁。稻艋及城內各戶樹國旗。松竹交青。店舖一齊休業。大有新年氣象。午前八時半。市內各官衙學校。銀行會社。先後各舉新年拜賀式。同十時十五分。於鐵道旅館。各官民。齊集禮會。同十時半。太田總督。木下長官。各在官邸。受官民參賀。市內各常設戲園。各告滿座。又本社主開。在圓山球場。野球比試。大博人氣。如草山、北投遊客。相續不絕云。

嘉村旅團集結主力後
以甲車急速西進
占領大凌河驛

一日奉天電。多門師團嘉村旅團。于溝幫子集結主力。今朝以來。以鐵甲車急速西進。午後三時。已渡大凌河。占領大凌河驛。錦州軍向西方總退。錦州西方八里之高橋。有敵列車八列車。錦州雖有車輛五十。而無兵隊。因我軍急速進出。周章狼狽。退却于西方。

竹州圖書陳列
兩館休業

新竹州立圖書館。依年例。於去十二月二十八日。至本月五日。九日間。圖書停覽。又東門外物品陳列館。亦遵年例。自去二十九日至本月三日。六日間。停止物品觀覽。

臺南消防組
出初式

臺南消防組出初式。訂一月四日午前八時。在臺南公園舉行。是日午前六時。市內各派出所。打鳴警鐘。及鳴氣笛。爲是消防組員總出。照年例在公園。舉行檢閱及表彰式云。

臺南南門外
墓地問題續誌

旣報臺南市內十七宗親會。對於此番市當局。欲新建一大運動場於大南門外。其關於該處墳墓遷移。及延期補助金要求等。去二十八日朝十一時。宗親會一務。四名連署。派鄭松筠。吳論柄。王汝禎三氏爲代表。提出陳情書。據市尹云。改葬延期。可許之展至來二月末。但補助款。須俟來一月初旬。再據代表。酌定之也。又據三氏所言。該處有緣墳墓尚未發掘者。不論有宗親會員否。請於最近日。通知於市內各宗親會事務所。以便累齊提出于市當局也。

嘉署廿九日
大搜索

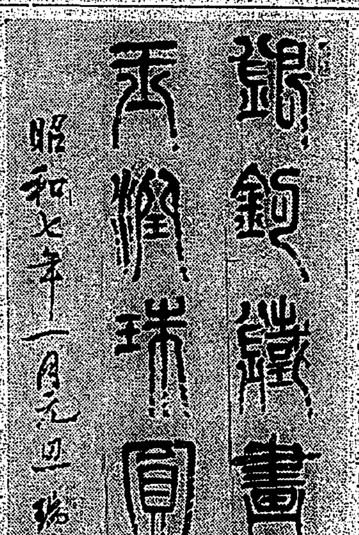
嘉義警察及郡警察課。客臘二十九日午後十時起。翌三十日午前四時頃。由州刑事課山下刑事係長。指揮署課全總動員開始大搜查。檢舉事件如左。警察署之捕獲物賭博現行犯一件二名。違警例一件一名。行政諸規則違反八件八名。逃走逮捕一件一名。罰金未納四件四名。科料未納一件一名。計十六件十七名。警察課之檢舉者行政諸規則違反二十九件二十九名。逃走者逮捕四件四名。罰金未納四件四名。計三十七件三十七名。

臺灣豫算大成功
池田財務局長談

池田財務局長。關督府來年度豫算編成。與大藏省折衝後。玆已告完。去三十一日歸臺。據云。來年度豫算。大概如貴報所載。新規事業五十件。公債三百萬圓亦承認。主爲充川鐵道改良。此次修築。而最苦心者。爲歲出。國債還基金年撥百四十三萬圓內三分之二。即約百萬圓納付之猶豫。此則未發表。是與剩餘金六百七十萬圓中。撥入三百萬圓。三者合計。來年度豫算。以財政的技術或手腕。浮出約七百萬圓。此點可謂臺灣之大成功。唯朝鮮概不承認。反以政府補給金。削除二百萬圓。電力外債。殘額三百萬圓。因對美濃水下落。損額百萬圓。而工事材料漲騰。包辦者應吃虧。關如鐵材。當由八幡製鐵所減折購入。又基隆有築港工事。新規事業則港民住宅。旭橋道路。其他專賣局酒舍倉庫增加一棟。

沙鹿華僑
抗不造路被拘

中華民國福州人王依嫩。現住大甲郡沙鹿庄。經營時計店。兼製洋服業。去三十日。聞爲欲補修縱貫路。各保民。均要出爲服役。惟彼不特不肯出役。且云不應出造日路。敢與官抗。致受該地所高倉巡查。拘去送郡云。



銀鉤鐵畫鍾王字
玉潤珠圓[illegible]譜

昭和七年一月元旦　瑞芳鑛山梅溪仙樵

自轉車狂漢
犯過失致死罪

新營郡鹽水街鹽水人。李氏招會之同居人王氏素月。年一。去十二月三十日下午四時四十分頃。於同所臨濟宗布教所前路中。有同居人李氏妙。年十三。背負欲入自家之際。被本居地北門郡北門庄過底寮人鹽水汪村居人侯開。年二十一之自轉車撞倒。李氏妙雖則無傷。而素月頭腦觸地。起腦震動斃命。侯開以過失致死罪。目下被新營郡警察課留置取調中。

煉瓦工場
柴堆起火

新營郡新營庄王公廟保正沈烏棕所有同庄許丑七一部地煉瓦製造工場柴堆。去十二月二十七日。午後六時半。突然發火。本營郡役所員。警察課員。壯丁團員。及一般民衆數千人。到現場極力消防警戒。迨至午後八時半。火滅。人畜幸無恙。查其原因。同工場自客年以來。薪上陷落。燒死二名。迷信者云及該窯有魔鬼作祟。是日爲祭魔鬼。疑出所燒銀紙復燃發火原因。及損害金額。正調查中。

稅金滯納
料亭被差押

高雄州鳳山郡鳳山街鳳山字縣口。新世界旅亭。因自去年八月起之營業稅並雜稅。四個月間。計金參百餘圓滯納。去十二月二十八日午後四時頃。被高雄州稅務課員。並鳳山街役場書記。將一切物品。差押在案。聞至本月十五日。若再抗納。決定欲競賣之云。

高壓線折斷
村婦觸電斃命

本居地新營郡鹽水街飯店。現住同郡白河庄白河人。侯泉之妻侯吳氏跳。年三十三。去十二月三十日。到園耕作。午後四時半。自園欲歸。途至同所三九○番。會孫發白河間電氣高壓線。被強風折斷。吳氏跳觸電即死。

本社讀者開運福引
特等建成町李氏英

本社依例。開讀者新春大福引。去二日。朝來晴霽。自上午十時。盛裝男女。齊持福引券。相繼而來。行列至本社後苑。至定刻。燃放爆竹。次奏樂。後各讀者。手持抽籤券。一々入福引場。讀入景品引換場。至同時十六分。發見一等籤一枚。次相繼發現。至下午三時。盛況裡散會。是日重要之當籤者如左。一等尚未被抽去。

建成町一ノ二二九　特等　李氏英十歲
建成町四ノ六　二等　與那國正一年十八
壽町一ノ一八　同　池山健一
新起町三ノ九五　同　肥後武信年十四
東門町一八五　參等　柳沼岩年十二
千歲町二ノ一　同　河村澄子年十五
御成町五ノ七　同　土野慶一年十八
臺北第一高女寮　同　神保次子年十七
北門町七番地　同　今川清千年十三
兒玉町二ノ一二　同　小野政子年十五
建成町二ノ二　同　佐々木一美年十二
建成町四ノ一　同　井野口若江
佐久間町一ノ四　同　浦野丸吉
御成町三ノ九　同　坂本爵子年十三
永樂町二ノ一〇　同　倉金邦年二十三
樺山町二〇　同　福田操年二十八
末廣町一ノ八　同　淺井政勝年九
御成町五ノ七　同　北原滿年九
老松町二ノ二七　同　上田兩藏年三十
四

十歲子六歲女失踪
父母尋覓不得痛不欲生

高雄市入船町。倉庫會社苦力。謝溫預。年四十四。去二十七日早。其妻率長子十歲。次女六歲。由本居地乘振興丸到高。赴同會社人夫寮。母姨之家早發未幾不見。家人大起恐慌。四處探覓。均無蹤跡。同日經稟報派出所。至今數日。親朋戚友日夜二十餘名。援助探訪。竝無形影。其父母痛不欲生。未知投水而死。抑被人拐去。尚未能明云。

鳳山信魚廉價

高雄州鳳山郡鳳山市場。去十二月二十九日早。由紅毛港、中坑門。高雄方面移入之信魚計二千餘尾。每斤價格四錢乃至五錢。魚子每斤六十錢。大埕內關。中間景氣。諸物價漸騰。惟信魚以捕獲日多。價格低廉也。

本社主開野球戰
五對四明大得勝
太田總督亦臨觀

本社主開之明大對鐵團比試。去日下午一時四十五分。開于圓山野球場。自上午十時。打揚花火。開始發賣入場券。先是太田總督及後藤法院長。白勢。三宅。中瀨。加福。三好。荒木。後宮等氏。及觀衆一同入場。至定刻。下午一時四十五分。由河村本社長。舉始球式後。開始比試。明大先攻。以五對四。僅差一點。歸明大勝利散會。

斗六
總會期日

斗六信用購買販賣組合。昭和七年度定期總會。定來春一月二十二日午前十時起。開於斗六座。

冬防警戒

斗六郡警察課。例年于新曆十二月二十五日起。派

大甲
塡補縱貫

大甲郡下縱貫道路。因路面粉。受風雨害。或遭荷車蹂躪不堪。故於去二十九日。由各地保甲人夫。出爲全部塡補。將所受損壞處域。佛得安全交通云。

許可已下

大甲郡清水街。蔡莊祭二

小賣人。因事成不密破綻。致是營業。被郡當局取消。而繼營是者。近已許可。與元州事周鴻文氏。及現爲莊丁團之蔡茂則氏。自三十日起開辦。

詩壇

櫟社紀念大會即事　蔡天弧

卅載騷壇憶俊遊。幽亭讌事喜重修。笑啼於我眞爲樂。老大逢塲足遣愁。琴未已雖詩境進。樽間尚有酒痕留。當筵朋從都無恙。一醉渾忘秋白頭。

同上　吳上花

結社光陰卅載經。合文提督舊花眼。吟哦聲歇方浮白。沿革書成便殺青。未可采撫嗟老境。正欣樽爍草高齡。箋刊十五硃鍋卅。又歸詩鉦纖姿寧。

曉鷄聲

○　鄭蓬齋

一聲喔々九重闈。碧煙爐灰燄錦幃。中天星斗欲除鄰。大地山河開曙色。報罷緣認鷄人幘。扶將香薦待從衣。笑却微禽全五德。詩歌戒旦美王妃。

○　天隨　久保得二

雞羽族。五德存。能司晨。赤幘尊。鳴喔々。據離披。起孤屋。傳千村。山河曙。烟彩繁。時將七。翠紅暾。炯茲日。會三元。曆方改。律吹暄。既恩汝。酬暉魂。想西土。夜猶昏。樂爲辛。怯歲奔。聲非惡。非英論。鴻荒昔。妖魅屯。開天窟。陶乾坤。昇平世。夢亦溫。更有誰。就劉琨。

○　邱濟培

乾坤將欲見分明。報曉待升唱數聲。能識太機因得氣。未看日色已先鳴。不甘自暇午後。何苦飛鷄奧凰並。起舞劉琨如有意。鏡中我亦趁人行。

○　李春霖

汝南曙色便登壇。終鯖來時月已殘。志士舞凭三尺古。騷人與壁五更闌。[illegible]從茅店早初落。消綠林花路未乾。似報東郊風景好。出塒啼破萬長安。

○　林朝宗

德禽喔々向朝陽。振羽長鳴破曉霜。香夢喚醒勞覺醒。晨錦逸韻和鏗鏘。英雄起舞心難已。茅店聞聲月有光。盛世元宵徵海內。愧無佳句若琳琅。

○　駱子珊

守信司晨不失時。獨冠羣居然遂擢。引新啼徹知天曉。五德命名列地支。超逃關舞起阻舞。弱關用說脫垂危。合傳誠首達鷄日。喚得人々早覺宜。

○　林子楨

迎年樂歲曉風清。御苑天鷄唱太平。祖逖寢中聞起舞。處示恐下聽訣所。德音秩々聞爭和。文采彬々北復鳴。一例梅花春信早。瑞祥捷報到昌明。

○　施教堂

禁闕宮闕向朝暉。香爐金爐玉漏稀。御苑花開迎瑞菊。國家鷄唱報熙徽。中禪湖畔紅樓醉。富士山頭白雪飛。箏激例年頒海內。鈞天樂奏共瞻依。

○　張世錫

唱徹五更報曉鷄。天開曙色滿皇洲。齊鳴祝夜催銅漏。獨立司晨凝玉砌。起舞孜孜思舜善。開聲喔々啓殷憂。雄冠勇士休爭鬪。南牎早爲錦亂謀。

會事

新營郡下小公學校及幼稚園兒童西部聯合學藝會。去二十七日上午九時起。開於新營小學校講堂。演題三十五種。至下午二時全部告畢。後由聯合會長川添郡守。起立訓示。又菊池郡視學講評。押川新營公學校長述閉會辭後。在別室開午餐會。是日來賓及各小公學校教師多數列席。又一般觀衆。有千餘名。

▲體育協會主催全島庭球大會。定來四日。開於嘉義支部球庭。申入出場組數。複組三十二組。單組二十八組。

人事

▲東京地方裁判所判事呂阿墉氏。此回冬季乞假歸臺。不日上京。

▲市內李金燦氏之長郎德財君。去年畢業千葉醫大。勤務臺北醫院。爲藥劑師。最近辭職。在稻江媽祖宮後新派出所對面。營業調劑。

▲竹山庄長林朔槐氏之父親六等林月汀氏。久在臺中養病中。客月二十九日。午後零時四五分。溘然逝世。享壽六十二。翌三十日。午後三時半。以自動車運柩歸梓。葬期未定。

廣告

營業變更（カフエー及料理業）
女給多數內臺名花
料理改良現代式[illegible]
太平町三丁目
新時元日開業
大家賓館

吳服反物卸小賣商
臺北市太平町二丁目
合名會社　菊元榮商店
電話　[illegible]
振替口座　[illegible]
受信略號（キクエ）又（マルエ）